

『黄金杖秘聞』作品情報

作成：西 芳実

■原題／英題

『Pendekar Tongkat Emas』／『The Golden Cane Warrior』
イファ・イスファンシヤ監督／2014年／カラー／
112分／インドネシア語

■舞台設定

- いつの時代のどの地域の物語かは示されない(インドネシアであるかも不明)
- 撮影場所は東ヌサトゥンガラ州東スンパ県

■登場人物

チュンパカ (Cempaka) …… 女性。黄金杖(Tongkat Emas)を受け継ぐ武術家。4人の弟子とともに「黄金杖」道場を率いる。チュンパカはインドネシア語で「銀香木」¹⁾。自らの死期が近いことを悟っており、黄金杖の継承者を決めて技を伝えようとする。

ダラ (Dara) …… チュンパカの最年少の女弟子。フルネームはメラ・ダラ (Merah Dara／紅の娘)。メラはインドネシア語で「赤」、ダラはインドネシア語で「生娘」。ベリン・ウング (Beling Ungu／紫の欠片)の子。

ビル (Biru) …… チュンパカの最年長の弟子。武術の腕はチュンパカの弟子の中でもっとも優れている。フルネームはカラ・ビル (Kala Biru／青いサソリ)。ビルはインドネシア語で「青」。

グルハナ (Gerhana) …… チュンパカの女弟子。グルハナとはインドネシア語で日蝕や月蝕を指し、転じて闇の意味もある。フルネームはダヤ・グルハナ (Daya Gerhana／闇の力)。ゴロッ・ワンギ (Gelok Wangi／香る剣)の子。蛇の毒を扱う。

アングン (Angin) …… チュンパカの最年少の弟子。子ども(10～12歳くらい)だが武術の腕はビルに並ぶ。アングンはインドネシア語で「風」。フルネームはリンバ・アングン (Lembah Angin／風の谷)。赤ん坊のときに親に捨てられていたのをチュンパカが拾い育てた。身体の経絡に通じ、相手の身体に触れて痛みを和らげたり動きを封じたりできる。口を利かず、目や仕草で会話をする。

エラン²⁾ (Elang) …… 武術界から離れた森の里に暮ら

す謎の青年。エランはインドネシア語で「鷹」。ビルとグルハナに襲われて負傷したダラとアングンを救出して自分の家に匿う。どの道場にも属していないが相当な武術使い。物語の後半で自身はチュンパカとナガ・プティの息子であると明かす。

長老 (役名なし、Head of High Council) …… 複数の流派から成り立つ武術界を束ねる最高評議会の最長老。「紅の翼」が主催する武術大会にも立ち会う。物語の後半でエランのおじであることがわかる。エランの「誓い」の証人。

ナガ・プティ (Naga Putih) …… チュンパカとともに「黄金杖の勇士」の弟子として、黄金杖を用いた秘技「大地をとりまく黄金の杖の技」³⁾を継承する。武術により相手を倒し殺さねばならないことを嫌い、黄金杖を継承して「黄金杖の勇士」になることを辞退する。チュンパカとの間に生まれた息子エランを育てる。ナガ・プティはインドネシア語で「白い龍」。

「紅の翼」師範 (役名なし、Red Wing Master) …… 「紅の翼」は武術界で最大勢力を誇る道場の一つ。闘技場を持ち、武術大会を主催する。武術大会には師範自ら出場して、毎年優勝している。チュンパカと親交があり、チュンパカに敬意と信頼を寄せている。

チュンパカとナガ・プティの師匠 (役名なし、Golden Cane Master) …… 黄金杖の勇士。チュンパカとナガ・プティに黄金杖の技を授けた⁴⁾。

■作品世界

(1) 武術界

- 複数の流派がある。劇中で名前があがっていたのは「黄金杖」、「紅の翼」、「妖虎」(Harimau Sakti)。それぞれ道場を持ち弟子を育てている。一つの道場に師匠(guru)は一人。
- 武術界を束ねる最高評議会がある。最高評議会のメンバーは長老(datu)と呼ばれ、織布を肩にかけている。
- 武器。流派ごとに用いる武器が異なっている。「黄金杖」は杖。劇中では剣や鎌を使う武術家が登場する。「紅の翼」は武器を用いていない。

3) インドネシア語は jurus Pendekar Tongkat Emas Melingkar Bumi. melingkarは「円を描く」。bumiは「大地」、「地球」。「地球回転の術」と呼んでもよいかもしれない。

4) インドネシア映画データベースでは Guruh Sepuh (グランドマスター)と記されている。

1) 肉厚で白色の花を咲かせ香しい匂いを放つ。インドネシアでは墓地によく植えられている。

2) 実際の発音は [ə]。「アラン」もしくは「ウラン」のほうが音は近い。

- 武術大会。各流派の代表が腕を競いあう武術大会が開催されている。会場は「紅の翼」の闘技場。最高評議会立会いの下で行われ、優勝者には織布が渡される。チュンパカはビルとグルハナに「黄金杖」の名代として長老と優勝者に挨拶をしてくるよう指示した。「チュンパカの弟子は今回も見学だけらしい」と言われており、「黄金杖」は武術大会に参加してこなかったことがわかる。

- チュンパカの武術観が冒頭で語られる。
「武術の世界は長くて暗い洞窟の中を進むよう。常に死の危険と隣り合わせ。」
「闘いの終わりには常に敗者の死がある。武術家には殺すか殺されるかしかないのか」
「武術の力を磨くのは技を極めるためではなく、弱い者や無力な者を守るため。強くても人のためでなければ意味がない」
「勝負の後に残るのは喪失感」「闘うほどやりきれない」
「闘うことで多くを失うが得るものもある」
- チュンパカの弟子に対する最後の教えは「腕が上れば上がるほど、背後から襲われることが増える」。

(2)黄金杖とその継承

- 黄金杖を用いた技は武術界で最強とされ、黄金杖の継承者は武術界の最高権威とされる。その技は継承者のみに伝えられる秘技である。
- 杖そのものに力はなく、訓練を積んだ二人の武術家が思考と呼吸を合わせた時に技が発揮される。習得には忍耐が必要。ダラとエランは数年を要した。
- 黄金杖とその技を継承した「黄金杖の勇士」は頭頂部で頭髪を丸めた髪型をしている。ビルとグルハナは正当な継承者ではなかったが、「黄金杖の勇士」を名乗るようになってからは髪型をチュンパカと同じ髪型にした。

(3)場所

- 「黄金杖」道場。人里離れた窪地にある。井戸はなく、川まで水汲みに行く。
- 町。市場があり人でにぎわっている。「紅の翼」道場もこの町にある。
- エランの村。町から離れた川沿いの森の中にある。
- 商人の家。エランが借金取り立ての代行で訪れた場所。乾燥した草原の中にある。
- チュンパカの墓。海沿いの丘の上にある。

(4)親子・子弟

- チュンパカの4人の弟子のうち、ビル、グルハナ、ダラはチュンパカとの対戦により命を落とした武術

家たちの子ども。アンギンは赤ん坊のころに捨てられていたのをチュンパカが拾った。4人とも実の子でないがチュンパカは「母」として4人を育ててきた。チュンパカと4人の弟子の関係は、子弟であると同時に親子。ビルとグルハナによるチュンパカ殺しは、子弟による師匠殺しであると同時に子による親殺しである。

- チュンパカはナガ・プティとの間に生まれた実の子どもを捨てた。冒頭で「最大の罪」としているのは我が子を捨てたことを指す。家族や血のつながった親子の関係よりも、黄金杖とその技の継承を自らの使命とし、武術界において強くなることを選んだ。
- エランは母チュンパカに捨てられた。子としても弟子としても父ナガ・プティに育てられた。
- グルハナの娘は母をダラとエランに倒された後、ダラに歩み寄る。その後のシーンで、ダラはグルハナの娘を引き取り、娘として、また弟子として育てることが示唆され、チュンパカと同じ道を辿ることが示唆される。

(5)ダラを支える二人の男

- アンギンはビルと互角の実力を持つ。口を利かず、ビルからは「しょせんガキだ」と馬鹿にされる。ダラもアンギンを弟として扱う。他方、アンギンはチュンパカの意をくみ、ダラの保護者として自らの命を顧みずダラの身を守ることに力を尽くす。アンギンの使命はダラを黄金杖の技を知るナガ・プティに届けること。力不足のままビルとグルハナに無謀な戦いを挑もうとするダラに対し、ダラの身体的自由を奪い、ダラの気配を消したうえでビルとグルハナの前に姿を現す。アンギンはビルとグルハナの前で初めて言葉を発し、一人前の男であることを示すが、それは命をかけた最後の戦いに臨むことを意味していた。アンギンの最後の言葉は「大人物は強くても何も求めない。小人物は強欲だが何も得られない。」
- ナガ・プティの息子エランは父ナガ・プティとともに武術界から距離を置き、黄金杖の技を継承すべき時と相手を待っていた。「黄金杖」一門とチュンパカに関わらないという誓いを立てながらも、武術界に危機が訪れ、大勢の人びとが危険にさらされると、「ほかに選択肢はない」として、ダラに黄金杖の技を伝える。ダラとともに黄金杖の技を発揮し、ビルとグルハナを倒すと、誓いを破った罰として武術界とダラのいる世界から自らを追放する。

(6)ダラの成長

- チュンパカをビルとグルハナに殺されたダラは、母であり師匠であるチュンパカの仇を撃とうとする。アングンをビルたちに奪われると、弟を救うために黄金杖をビルに渡してしまう。
- アングンをビルたちから取り戻したものの、ビルとグルハナに追われると逃げずに戦おうとする。アングンに体の動きを封じられ、ダラは助かるがアングンはビルとグルハナに殺される。
- アングンとチュンパカの仇を撃つために力が未熟なままビルたちのもとに忍び込んだところをエランに止められる。
- 黄金杖をめぐるエランの話を聞いたのちに、黄金杖の技を学ぶためにエランに弟子入りする。「仇を討つまであなたに従う」。
- さらにエランが修行の心得を教えると「歴代の勇士のために杖を取り戻す」

(7)満月

- 劇中、満月があらわれると不吉なことが起こる。
- 一度目の満月の翌朝、チュンパカはビルとグルハナに襲われ殺される。
- 二度目の満月の翌朝、「紅の翼」師範がグルハナの毒により命を落とす。
- 三度目の満月の晩、月が雲に隠れた暗闇に乗じてビルとグルハナの手下により最高評議会が襲われる。

■配役

ダラ……Eva Celia(エファ・セリア)

エラン……Nicholas Saputra(ニコラス・サプトラ)

ビル……Reza Rahadian(レザ・ラハディアン)

グルハナ……Tara Basro(タラ・バスロ)

アングン……Aria Kusumah(アリア・クスマ)

チュンパカ……Christine Hakim(クリスティン・ハキム)

長老……Slamet Rahardjo(スラメット・ラハルジョ)

若きチュンパカ

……Prisia Nasution(プリシア・ナスティオン)

“紅の翼”師範……Whani Darmawan(ワニ・ダルマワン)

チュンパカとナガ・プティの師匠

……Landung Simatupang(ランドウン・シマトウパン)

■俳優・女優

- エファ・セリア(Eva Celia) 1992年生まれ。女優ソフィア・ラチュバ(Sophia Latjuba)と音楽家インドラ・レスマナ(Indra Lesmana)の娘。ミラ・レスマナの姪。

キリスト教徒(カトリック)。オランダ、ブギス、ジャワ、ドイツ、マドゥラ、ミナンカバウの混血とされる。テレビドラマやCMに出演するほか歌手活動も行う。

- ニコラス・サプトラ(Nicholas Saputra) 1984年生まれ。ジャワとドイツの混血。インドネシア大学工学部建築学科卒。日本公開作品では『ビューティフル・デイズ』(Ada Apa dengan Cinta、2001年、ランガ役)、『ギー』(Gie、2004年、スー・ホックギー役)、『永遠探しの3日間』(3 Hari untuk Selamanya、2006年、ユスフ役)、『動物園からのポストカード』(Kebun Binatang、2012年、マジシャン役)などに出演している。

- レザ・ラハディアン(Reza Rahadian Matulesy) 1987年生まれ。ボゴール出身のイスラム教徒。ブルネイ映画『ドラゴンガール』では主人公の高校生ヤスミンの父を演じ、シラットを披露している。日本公開作ではほかに『ハビビと&アイヌン』(Habibie & Ainun、2012年、ハビビ役)に出演。

- タラ・バスロ(Tara Basro) 1990年生まれ。日本公開作では『月までアナザートリップ』(Menuju Rembulan、2015年、アサ役)に出演。

- クリスティン・ハキム(Christine Hakim) 1956年生まれ。ジャンビ出身。父はアチェとバンテンの、母はレバノンとジャワの混血とされる。1973年から映画出演。インドネシア映画界の巨匠トゥグ・カルヤの作品でデビュー。1974年にインドネシア映画祭で主演女優賞を獲得。国際的にも知られたインドネシアの大女優。『枕の上の葉』(Daun di atas Bantal、1998年)など制作にも携わる。『チュッ・ニヤ・ディン』(Tjoet Nja' Dhien、1988年)でアチェ戦争の女性英雄を演じた。

- スラメット・ラハルジョ(Slamet Rahardjo Djarot) 1949年生まれ。西ジャワのバンテン生まれ。俳優としても製作者としてもインドネシア映画界の重鎮の一人。舞台役者。トゥグ・カルヤ監督の作品で1971年から映画俳優としての活動を開始。1970年代のインドネシア映画に欠かせない俳優。映画監督のエロス・ジャロットは弟。

- プリシア・ナスティオン(Prisia Wulansari Nasution) 1984年生まれ。中学時代から武術ブンチャック・シラットを始める。ドイツの大学でITを学ぶ。『聖なる踊り子』(Sang Penari、2011年、イファ・イスファンシャ監督、スリンティル役)、『ジャングル・スクール』(Sokola Rimba、2013年、リリ・リザ監督、ブテット役)で主演。

■制作

監督……Ifa Isfansyah

プロデューサー……Mira Lesmana

脚本……Jujur Prananto/Mira Lesmana/Ifa Isfansyah/
Seno Gumira Ajidarma

ストーリー原案……Mira Lesmana/Ifa Isfansyah/
Riri Riza/ Eddie Cahyono

共同プロデューサー……Riri Riza

協力プロデューサー……Robin Moran

アクション指導……Xiong Xin Xin

撮影監督……Gunnar Nimpuno

美術監督……Eros Eflin

編集……Waluyo Ichwandiardono

音楽……Erwin Gutawa

衣装……Chitra Subiyakto

制作……Miles Films/ KG Studio

■インドネシア映画におけるアクションと勇士 (Pendekar)ものの制作状況

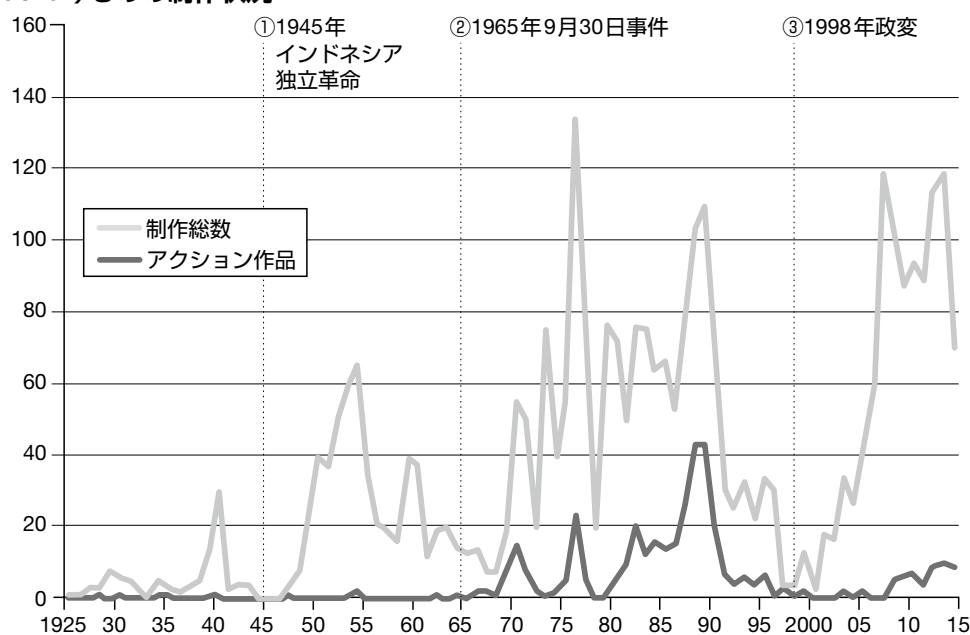


図 インドネシア映画の製作本数の推移

(<http://filmindonesia.or.id>より西芳実作成)

インドネシアの映画制作とアクション作品の経年推移は図のとおり。制作本数は革命・政変を境に大きく変動している。

このうち武術家をさす「pendekar」(勇士)をタイトルにした作品は以下の26作品。『黄金杖秘聞』は長い空白期を経て登場したpendekarものであることがわかる。

- | | |
|---|--|
| ●1940年1作 Pah Wongso Pendekar Bodeiman | ●1988年2作 Pendekar Ksatria/ Pendekar Lembah Kuning |
| ●1952年1作 Tiga Pendekar Teruna | ●1989年4作 Pendekar Mata Satu/ Pendekar Mata Satu Lawan Sabuk Badak/ Pendekar Tapak Sakti/ Pendekar Ilmu Api |
| ●1953年1作 Lima Pendekar Budiman | ●1990年4作 Pendekar Cabe Rawit/ Pendekar Naga Mas/ Pendekar Jagad Kelana/ Gadis Pendekar |
| ●1971年2作 Pendekar Bambu Kuning/ Pendekar Sumur Tudjuh | ●1991年1作 Darah Pendekar |
| ●1977年4作 Pendekar Tangan Hitam/ Mistery 8 Pendekar/ Ateng Pendekar Aneh/ Dua Pendekar Pembelah Langit | ●1992年2作 Pendekar Pedang Seribu Bayangan/ Tutar Tinular III (Pendekar Syair berdarah) |
| ●1978年1作 Pendekar Kelelawar | ●2014年1作 Pendekar Tongkat Emas |
| ●1982年1作 Pendekar Liar | |
| ●1987年1作 Pendekar Bukit Tengkorak | |

(<http://filmindonesia.or.id>から作成)